

論文特集「Web インテリジェンスとインタラクション」にあたって

笹嶋 宗彦

(兵庫県立大学)

Web インテリジェンスとインタラクション研究会は、所属する学会や活動の形を少しずつ変えながらも、年2回のペースで研究会を開催している。2012年から現在の運営組織形態となり、この11月に、通算16回目となる研究会を、オンラインで開催した。研究会名称にWebを冠することで、格好良く言えば学際的研究、平たく言えばどこに行けば聞いてもらえるのかわからないような研究の受け皿として機能しており、SNS、データベース、情報推薦、学術情報などに関する技術報告から、コミック工学、オンライン講義の苦勞話まで、実に多様な発表を集めていた。

さて、人工知能学会論文誌での「Web インテリジェンスとインタラクション」論文特集(WI2特集)は、前回2017年11月号から、約3年ぶりとなる。研究会のコアメンバーで2019年の夏に特集号を企画し、企画が承認されてCFPを掲載していただいたのが2020年1月号だった。そのときはまさかこのような社会情勢になるとは露知らず、半年も募集をかければそれなりに論文は集まるだろうと楽観的に考えていた。

その後何が起きたかは読者の皆様ご存じのとおりで、大学も否応なく大混乱に巻き込まれてしまった。気がつけば当初設定した締切(5月初旬)まであと3週間となったにもかかわらず、投稿論文が数件も集まっていない状況であった。編集委員各位に様子を聞くも、異口同音に、オンライン講義の準備と、日々変わる状況への対応で、研究活動が2月から全く進まず、論文執筆どころではないとのことであった。筆者自身、設立2年目の学部を抱え、会ったこともない新入生にオンラインで必修科目の授業を提供する段取りに日々翻弄されており、正直なところ、特集号を組むのは無理なのではないかと、諦めかけたこともあった。

とはいえ、研究会の常連参加の先生方には、WI2特集を貴重な研究成果発表の場として期待しているとおっしゃってくださる方もおられた。その声に背中を押され、思い切って投稿締切を1か月間延長した。

結果として、総数では、前回特集は下回るものの、15件の投稿を集めることができた。そのうち採録されたのは次の9件である(順不同)。

- (1) 飲食店レビュー文章における視点の分析
- (2) 批判的なウェブ情報探索方法の提案
- (3) 状況を考慮した音楽の推薦

- (4) ウェブ検索ログからの購買行動予測
- (5) コミュニティQAからの子育ての悩みの検索
- (6) 株主招集通知文章からの重要情報の抽出
- (7) 航空交通管理のためのオントロジーの構築
- (8) インターネットテレビの視聴者コメントの分析
- (9) 購買データ分析に基づく実店舗での販売促進

過去のWI2研究会主催の特集号論文と同じく、いずれも対象とする領域、提案手法、評価軸などが異なり、一度の査読で採録となった論文はなかった。それでも照会を行い、ち密に議論を積み重ね、最終的には査読者と編集担当者、編集委員会が合意を形成し、すべての論文に対して適切な判定が行われたと考えている。

繰返しになるが、研究活動が大変難しい中で、投稿いただいたすべての著者の皆様には、この場を借りて深く御礼申し上げる。また、論文をできるだけ育てるという方針のもと、論文によっては再度の査読や編集委員会での協議などを重ねることとなったが、それらの方針に従い、真摯に査読をしてくださった、すべての査読者の皆様に心から感謝を申し上げます。さらに、不慣れな編集委員長の問合せにそのつど対応し適切な助言をいただいた、ゲストエディタの清田陽司先生には心からお礼を申し上げます。

最後に、担当論文の査読者と密なコミュニケーションをとりつつ、予定より期間が1か月短縮された中で、当初の予定どおりの掲載号に間に合うよう、全体の進行と査読スケジュールを管理しつつ、すべての論文に対して採録可能性を検討していただいた、編集副委員長の岡本一志先生はじめ、編集委員各位にも謝意を表したい。この論文特集が、Web インテリジェンスの研究コミュニティを活性化の一助になること、そして、新型コロナウイルス禍が早期に終息し、対面で活発な意見が飛び交う研究会活動を再開できることを心から願う。

論文特集「Web インテリジェンスとインタラクション」

編集委員会(敬称略)

編集委員長: 笹嶋 宗彦(兵庫県立大学)

編集副委員長: 岡本 一志(電気通信大学)

編集委員(ゲストエディタ): 清田 陽司(LIFULL)

編集委員: 大塚 真吾(神奈川工科大学), 高間 康史(首都大学東京), 大向 一輝(東京大学), 杉原 太郎(東京工業大学), 山本 岳洋(兵庫県立大学)